

当院の透析患者における睡眠時無呼吸症候群の実態調査と J E S STMの有用性

東邦病院診療協力部ME科¹⁾，東邦病院腎臓血液センター²⁾

○小川 浩司（おがわ こうじ）¹⁾，宮本邦生¹⁾，佐々木寿子¹⁾，佐野浩之¹⁾，松村昌樹¹⁾，岡部洋子²⁾，吉田弘明²⁾，小林さつき²⁾，松本孝之²⁾，坂本龍彦²⁾，植木嘉衛²⁾

【目的】慢性腎不全に睡眠時無呼吸症候群が合併するといわれているが、統計データは豊富ではない。また、終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査の予備審問で行われる J E S STMに疑問を投げかける研究者がいる。そこで我々は当院における実態について調査することとした。

【対象】調査に対し了承を得られた当院にて透析を受けられている患者 295 名（平均年齢 66.5 歳、平均透析歴 7.2 年、男性 203 名、女性 92 名、糖尿病 119 名）。

【方法】J E S STM調査票を用いて、対面式聴き取り調査を行った。また、生活環境や年齢、認知症等の条件を考慮に入れ、全 8 設問に対して 3 設問以上の無回答がある調査票は統計から除外した。

【結果】24 点満点に対し、平均 3.05 点であった。内訳は、男性平均 3.32 点、女性 2.44 点、糖尿病 3.03 点、非糖尿病 3.06 点、透析歴一年未満 3.40 点、1～5 年未満 3.28 点、5～10 年未満 3.23 点、10 年以上 2.49 点、年齢 30 代 2.00 点、40 代 4.52 点、50 代 2.97 点、60 代 2.80 点、70 以上 3.01 点であった。

【考察】J E S STMでは 11 点以上が病的過眠領域とされているが、聴き取り内容が安易な為、自己の眠気を過小評価し点数が低くなる傾向があると指摘されているが、この傾向を示すものとなった。有用性の是非はこれだけでは判断し難いが、運用には注意が必要である。しかしこの結果を参考に 3 点以上の患者に対し終夜睡眠ポリソムノグラフィーのスクリーニングを行うつもりである。この結果は順次報告する。